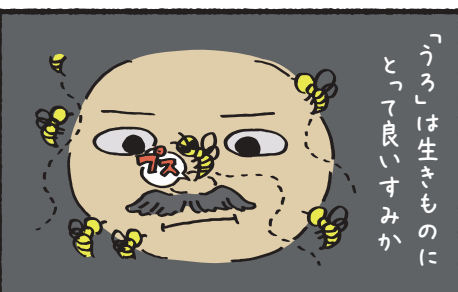
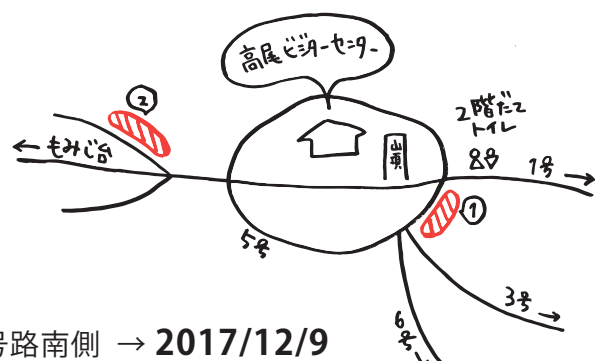


たかおさん

「たこ杉のうろ」の巻



シモバシラの氷の華の初確認情報 (山頂周辺)



①5号路南側 → 2017/12/9

②もみじ台北側巻道 → 2017/12/13

よく聞かれる シモバシラQ&A

Q1.いつ頃から見られますか?

→12月中旬あたりから見られ始めることが多いです。

Q2.見頃はいつですか?

→12月下旬～1月上旬あたりに大きな氷の結晶が見られる年が多いです。氷が溶けたり出来たりを繰り返すと、茎がボロボロになり、大きい結晶が出来にくくなってしまいます。ですので、出来始めの気温の低い日(-2.0℃以下)が狙い目です。

Q3.午前中に行かないと、見られないですか?

→寒い日であれば1日中溶けずに見られることもあります。ですが、日中は気温が上がりやすいため、お昼頃には溶けてしまうこともしばしば。気温の低い午前中の方が見られる確率は高いです。

のぶすま50回目の発行を迎えて

解説員 しらむ vol.12

皆さま、あけましておめでとうございます。シモバシラの氷の華を楽しみ、ダイヤモンド富士を眺めていたら、あれよあれよという間に新年を迎えてしまいました。そして、気づけばこの「ニュースレターののぶすま」も本号で記念すべき50回目の発行を迎えます。第1回目の発行がいつだったかと言いますと、さかのぼること13年前の2005年の1月1日です。当初を知る解説員はもうほとんど残っていないのですが、記事を読んでみるとこれまで高尾山内で起こっていた様々な変化を知ることができます。例えば、初号(2012)では「高尾山の水事情」という話で、山頂下トイレの水が電気ポンプを使って日影沢の沢水を引いていたとあります。現在は沢水ではなく水道水の利用に変わりましたが、これは高尾山の利用者数の増加を示す出来事のように思えます。

そして、何より感じられるのは、今も引き継がれている高尾山の自然を楽しむ、またそれを伝えようとする気持ちです。おそらくこれは、高尾山の自然を楽しもうとする利用者の方々や解説員との間で育まれてきた探究心なのでしょう。

こうしてみると、「ニュースレターののぶすま」は高尾山を愛する人々によって紡がれてきた、高尾ビジターセンターの歴史そのもののようにも思えます。これからも、皆さまに愛される「のぶすま」を作っていくよう、先人たちの残した言葉と向き合い、高尾山の自然からたくさんのお見聞を見つけて伝えていける解説員を目指したいと思います。皆さま、今年もどうぞよろしくお願致します。

〈解説員 梅田〉

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



祝 50 季刊 vol.50 2018年冬号



高尾山のスギのある風景

来山者を迎えるようにそそり立つスギ。見るものを圧倒し、引き付ける。迫力の巨木たちは薬王院周辺にあります。

今回はそんな高尾山のスギをご紹介します。

①高尾たこスギ 幹回約3.9m 樹高約24.5m 推定樹齢450年 ケーブルカー下車後、最初に出会える大きく曲がった根が特徴的なスギです。

②高尾山のスギ並木 幹回約5m 樹高約47m 推定樹齢700年 権現茶屋から薬王院山門までの間に10本ほどの大きなスギが見られます。

③高尾山の飯盛スギ 幹回約7m 樹高約40m 推定樹齢500年 薬王院境内の「しゃくなげ園」にあります。通常は遠目で樹冠しか見ることができませんが、しゃくなげ園開園時には根元から見ることもできます。(開園時期はシャクナゲが見ごろになる4月下旬から5月上旬)

参考資料:東京都文化財情報データベース、八王子市の文化財



今から160年程前の江戸時代に書かれた地誌「八王子名勝志」では、【一本杉】【十本杉】の名称でスギが紹介されています。場所は現在のケーブルカー高尾山駅から薬王院門前にあったようで、【たこスギ】=【一本杉】、【スギ並木】=【十本杉】ではないかと思われます。昔も今も、スギは高尾山の名物だったことがうかがえます。



なぜ薬王院周辺には大きなスギが多いのでしょうか。この風景に隠された秘密を紐解いてみました。

スギは薬王院の貴重な財産

高尾山が国定公園となる以前、薬王院のスギは寺社の建材など多岐にわたり使われていました。スギは薬王院の大切な財産であり、長い年月をかけて大切に育てられてきました。

寺社の建材



この地で育った材はこの地の建物に最適
書院にも使われています

ごま 護摩焚きで使用する護摩木



信仰の対象



大きなスギには
数々の伝説があります

木札



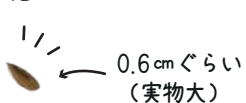
※現在は
別の木材を
使用しています

なぜスギを育てる必要があったのか…

日本固有種のスギは、かつては北海道を除く日本全国に自生したと考えられ、古くより日本人にとって身近な存在であり、利用されてきました。スギの芽生えはとても小さく、落ち葉や草で覆われた場所では生き残ることができません。スギを伐り出した跡地には、落ち葉が積り、草が生え、新しい世代の若木スギの成長を妨げました。そのため天然のスギ林が減少したと考えられます。スギは人に管理してもらうことで大きく育つことができる植物となりました。

高尾山で
芽生えを探してみよう！

種はたくさん
見つかったが…

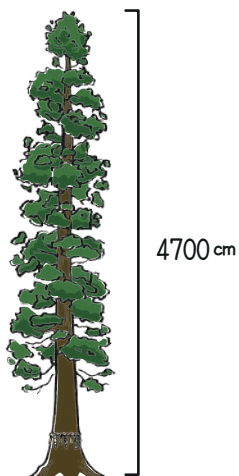


芽生えは
見つからず



人に育てられて
大きく育ったんだね

解説員 160cm



高尾山のスギを育てた人々

薬王院の重要な財産“スギ”を育てる場であった高尾山は、麓の村人にとっても家畜の飼料をまかなう重要な場でした。今から370年程前(慶安2年)の古文書に高尾山の利用をめぐる山論の記録があります(詳しくは“高尾山の歴史”でご紹介)。管理者であった薬王院は民衆と折り合いをつけながらも厳しく山林を守ったことで、地域で計画的に山林を守るいしづえが育まれました。さらに41年後(元禄3年)には、「地中百姓」「御寺領百姓」として、村人が本格的に山林管理を行うようになりました。当時から信徒による杉苗奉納が盛んでしたが、山林を維持するには不十分でした。薬王院が苗木を購入し、村人が植え付けと下草刈りを行いました。作業場は1号路・琵琶滝周辺に集中しており、現在でも立派なスギが見られます。スギは民衆の働く場所を作りました。そして地域で協力してスギを育てたことで、高尾山のスギのある風景が出来上がりました。

参考資料：多摩のあゆみ第99号「近世高尾山における山林保護と名所化」



【杉苗奉納】願いが成就した際、感謝とお礼を込め、苗木を奉納する習慣

明治30年、市内の大半が焼ける大惨事となった“八王子大火”が起こりました。この時に、消失した八王子第三小学校再建のため、薬王院のスギが寄贈されたという記録が残っています。薬王院と地元八王子の絆の深さを感じられるエピソードです。



高尾山には人々の暮らしと文化の物語がありました。その物語を伝えるスギが今もこの山にはあります。高尾山のスギのある風景は“かたりべ”として、この場所でいつまでも人々を出迎えてくれることでしょう。〈解説員 佐藤多寿子〉

山の宝の分かち合いが 今に教えてくれるもの

建築資材・薪・秣……、生活の資源をもたらしてくれる山林は、まさに宝の山でした。その限られた宝の分かち合いに、人々は知恵を工夫を巡らせていました。

コンクリート、電気やガス、化学肥料などの無い時代、山林は生活必需品を確保するための大事な場所でした。人々は山に入っては、樹木を伐り出し、落枝や落ち葉を拾い、柴や草を刈り、そしてこれらを加工して木材や薪炭、肥料や飼料などに活用していました。しかし、山の恵みは無尽蔵ではありません。山林資源の分配は、江戸時代の各地で、しばしば課題となっていました。こうした課題は「山論」と呼ばれ、その解決に知恵と工夫が図られていました。薬王院に現存する古文書を読み解いたものをまとめた文献『高尾山薬王院文書を紐とく(村上直編著)』によると、高尾山でも山論が生じていたことが分かります。当時の高尾山を寺領として管理していた薬王院は、近隣村民の生活に必要な分だけの草の刈り取りを認めていました。ところが、竹木や薬王院の植えた杉の苗が勝手に伐採されることが起こります。薬王院側はやめるよう主張しますが、伐採の収まらないこともありました。何とか解決を求めて、お互いに話し合いをするようになりました。その結果、高尾山は薬王院の寺領であるから、草刈りは許可証となる木札をもらう



〈解説員 藤野〉

てからすること、事前に定められた量だけ草刈りをするなど、竹木は伐採しないことなどを取り決めます。両者も合意し、一件落着となりました。現代の高尾山において、その自然をこうした資源として見ることは少なくなりました。その代わり、自然の楽しさを享受する場や、多種多様な生物の生息する自然豊かな場として重要視されるようになりました。ここにも高尾山を利用する上での課題がないわけではありません。動植物の持ち出し、植生地への踏み込み、オーバークースなど、現代版の「山論」がくすぶっているのです。高尾山へのニーズはますます高まり、複雑になっていきます。この「山論」を無事解決し、高尾山の「宝」を将来へ残していくためにはどうしたらよいか？当時の山論はそのヒントを教えてくれているような気がします。

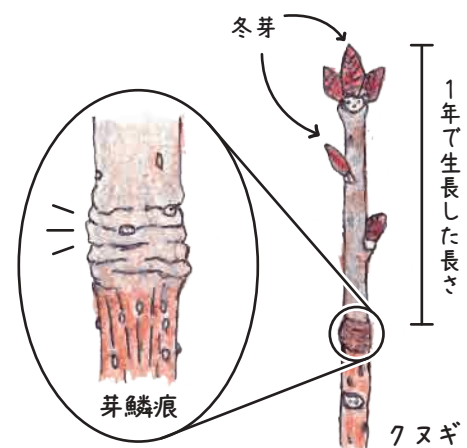
高尾山の れきし vol.12

いちおし vol.8

解説員の

芽鱗痕「がりんこん」

芽鱗痕を観察して分かる
樹木の生長の証



春になると枝木が生長し剥がれ落ちた冬芽の痕が残ります。それが芽鱗痕です。冬に葉が落ちると観察しやすく、樹木の生長の度合いを観察することができます。樹木が一年で伸びる長さは種類によって違いがあり、芽鱗痕の位置で生長を知ることができます。

見つけやすい時期…葉が落ちた秋から冬
観察しやすい樹木…
・早く伸びる↓ヤマグワ/クヌギ
・ゆっくり伸びる↓イタヤカエデ/ブナ

〈解説員 加藤〉